

TOTO 水環境基金

2020年度 助成先団体活動報告

2020年4月～2021年3月

(第13・14・15回)

TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけではなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。



想いを同じくするパートナーを探して

助成先団体の選考にあたっては、TOTOグループ社員から選出された選考員が応募団体の方と面談をし、「水環境にかかわる地域課題を地域の方々と共に解決したい」という想いを伝えていきます。そのうえで、応募団体の活動の詳細やどのような想いを持って活動されているのかを確認し、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、想いを同じくする団体と活動をスタートします。

地域に根差した継続的な活動を支援

途上国では、水不足や劣悪な衛生環境により、数多くの人びとが命を落としています。また、環境保全、貧困、教育、ジェンダー平等の実現などの様々な課題を抱えています。このような状況において、特に衛生環境の課題解決には、一時的な水まわり器具などの物資や資金などの提供だけではなく、維持や管理の仕組みを根付かせるために、継続的に現地を支え、衛生的な生活環境の重要性を伝えていく活動が欠かせません。TOTO水環境基金は、このような活動を行う団体を支援することで、持続的な発展を目指しています。

地域の一員として共に課題解決に取り組む

TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促しています。TOTO水環境基金助成先団体の活動にもTOTOグループ社員がボランティアとして積極的に参加するとともに、一般市民の方々へも参加を呼びかけています。助成期間が終わっても情報交換やボランティア参加などを通じ、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続いており、年々活動の輪が広がっています。また、助成先団体のネットワークづくりや活動のステップアップ支援を目的として、「助成先団体交流会」を開催しています。団体の方々や助成活動に関わるTOTOグループ社員が一堂に会して、助成先団体による事例発表、懇親会などの交流を図ります。こうした活動は、TOTOグループ社員の社会貢献・地域共生に対する意識の醸成と社会貢献活動へ参画する“きっかけ”となっており、このプログラムを通じた地域とのコンタクトの積み重ねが、TOTOグループと地域社会との共生につながっていくと考えています。

みんなの想いを反映して

助成金額は、「お客様」に購入いただいた節水商品による節水効果、「株主様」の株主優待制度による寄付、「TOTOグループ社員」によるボランティア活動の参加人数を基に算出し、さらにTOTOがマッチングすることで決定しています。ステークホルダーの皆様の環境貢献へのかかわりが増すほど、「TOTO水環境基金」の助成金が増えていく仕組みです。

【SDGs・持続可能な17の開発目標】

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



各団体の紹介ページ(P7~P25)におけるSDGsマークについて

上段・団体名の下：その団体が取り組んでいるSDGs開発目標
中段・活動内容下：上記のうち水環境基金の助成活動で取り組んでいるSDGs開発目標

- 1 貧困をなくそう：あらゆる場所、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- 2 飢餓をゼロに：飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- 3 すべての人に健康と福祉を：あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- 4 質の高い教育をみんなに：すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 5 ジェンダー平等を実現しよう：ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 6 安全な水とトイレを世界中に：すべての人々に衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに：すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- 8 働きがいも経済成長も：すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長・生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事)を推進する
- 9 産業と技術革新の基盤をつくろう：強靱なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
- 10 人や国の不平等をなくそう：国内および国家間の格差を是正する
- 11 住み続けられるまちづくりを：都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靱かつ持続可能にする
- 12 つくる責任 つかう責任：持続可能な消費と生産パターンを確保する
- 13 気候変動に具体的な対策を：気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- 14 海の豊かさを守ろう：海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- 15 陸の豊かさを守ろう：陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の防止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- 16 平和と公平をすべての人に：持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 17 パートナリシップで目標を達成しよう：持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化させる

2020年度助成活動の成果

助成金 総額 **2,666**万円 運営経費 **125**万円

助成によって実施した活動

助成先団体
19団体

活動回数
474回

活動に参加いただいた人数
13,981人
うちTOTOグループ
参加人数 **91**人

国内

自然を守るために植えた植物 **1,280**本
整備した面積 **15.3**ha
除去した植物 **980**kg



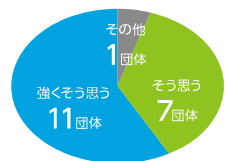
海外

自然を守るために植えた植物 **111,963**本
整備した面積 **27**ha トイレの設置・修理 **10**基
井戸再生 **9**基 水道設備敷設・修復 **80**箇所
貯水タンク設置 **26**基
浄化設備設置 **3**基
手洗い場設置 **4**箇所
受益者 **36,525**人

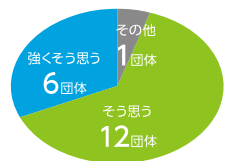


活動による意識変革

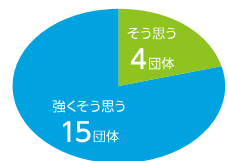
地域課題の改善や解決のために貢献できたと思いますか？



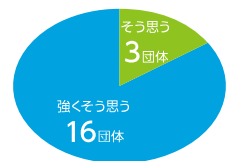
環境に配慮した行動をするべきだという意識の変化を、より多くの人々に与えられたと思いますか？



別の環境課題を見つけた場合に、新たに取り組んでみることを考えてもいいと思いますか？



TOTOは地域・社会課題の解決に貢献していると思いますか？



助成した19団体へのアンケート調査結果より

第1回～第15回の累計

◎助成先団体：269団体
◎活動回数：4,745回（第7回以降）

◎助成金額：3億6,431万円
◎参加人数：179,917人（第7回以降）

第15回（1年目）助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	NPO法人 白神山地を守る会	陸奥湾の高温障害から環境を守る植林・普及活動	青森県東津軽郡	7
2	NPO法人 しるい環境塾	美しい下手賀沼の景観復活!2020	千葉県白井市	8
3	一般社団法人 ClearWaterProject	ドジョウを守り、地域に根差す岩本川へ	愛知県豊田市	9
4	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金	学びと実践のための谷まると棚田の自然再生プロジェクト	奈良県奈良市	10
5	NPO法人 ハロハロ	アルマー島における持続可能なマングローブ林形成プロジェクト	フィリピン ボホール州	11
6	公益財団法人 オイスカ	ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業	インドネシア 中部ジャワ州	12
7	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン	インドにおける地下水保全・給水設備整備プロジェクト	インド アーンドラ・プラデーシュ州	13
8	認定NPO法人 ICA文化事業協会	インド干ばつ地域での飲料水確保のための井戸再生事業	インド マディヤ・プラデーシュ州	14
9	認定NPO法人 難民を助ける会	トイレで就学応援難民児童を支える衛生プロジェクト	パキスタン ハイバル・パフトゥンハー州	15
10	認定NPO法人 道普請人	ビクトリア湖ジンガ島の安全な水へのアクセス向上と緑化推進	ウガンダ ワキン県	16

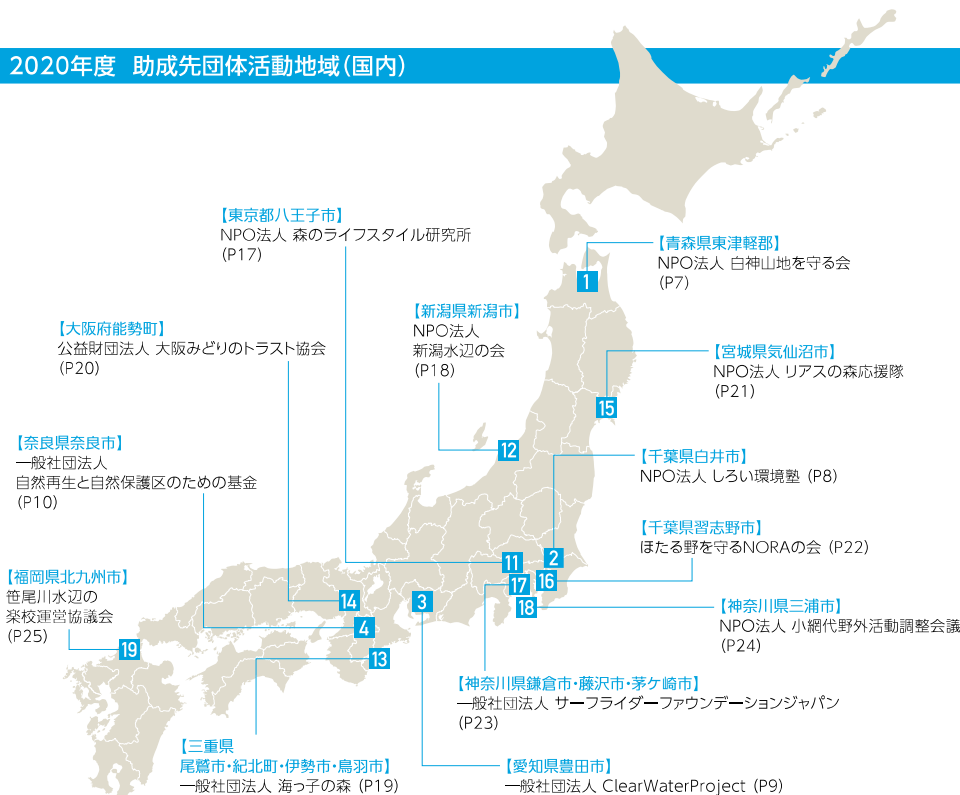
第14回（2年目）助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
11	NPO法人 森のライフスタイル研究所	八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト	東京都八王子市	17
12	NPO法人 新潟水辺の会	鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト	新潟県新潟市	18
13	一般社団法人 海っ子の森	漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減	三重県 尾鷲市・紀北町・伊勢市・鳥羽市	19
14	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会	地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全	大阪府能勢町	20

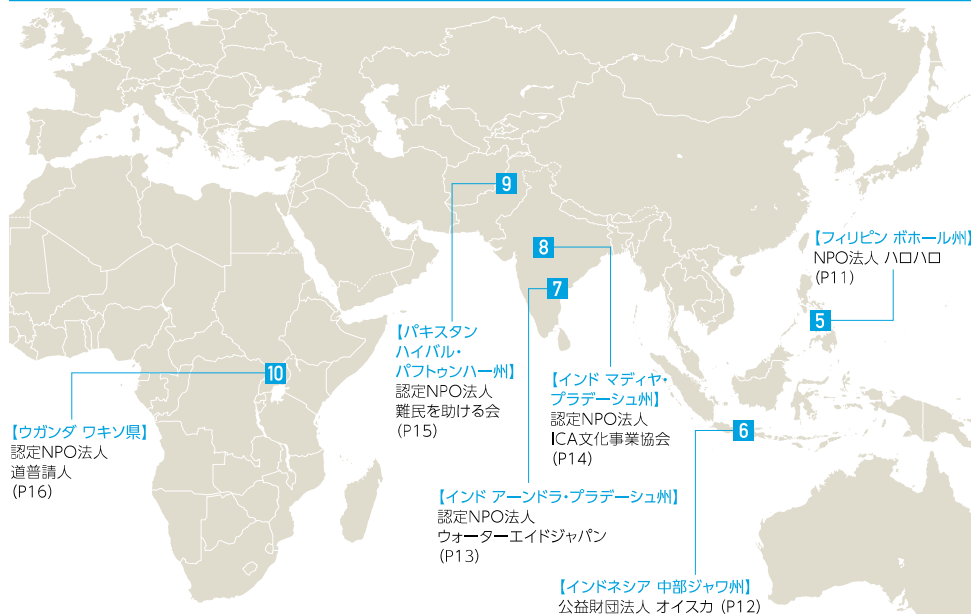
第13回（3年目）助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
15	NPO法人 リアスの森応援隊	豊かな海と森を作る自伐林業家の養成	宮城県気仙沼市	21
16	ほたる野を守るNORAの会	「きみとぼくの心の故郷を次世代に」 田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に!	千葉県習志野市	22
17	一般社団法人 サーフライダーファウンデーションジャパン	海岸のビーチクリーンを通じた水環境への意識向上を図る	神奈川県 鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市	23
18	NPO法人 小網代野外活動調整会議	小網代の森「ヤシャブシ谷戸」におけるホテル舞う水辺環境の創出	神奈川県三浦市	24
19	芭尾川水辺の茶校運営協議会	水辺の茶校を拠点とする河川環境整備と水環境啓発運動	福岡県北九州市	25

2020年度 助成先団体活動地域(国内)



2020年度 助成先団体活動地域(海外)



1

NPO法人 白神山地を守る会

【代表者】 永井 雄人



当会は、白神山地のブナの森の復元・再生活動を実施する団体として、1993年白神山地が世界遺産登録した年に発足しました。白神山地では、世界遺産登録の前にブナの伐採があり、現在もかなりの箇所でも木々が失われた状態となっています。白神山地の自然遺産を次世代に残していく為に、ブナなどの広葉樹の苗木づくりを行い、植林活動に取り組んでいます。また、自然保全の活動を理解してもらうためのガイドや環境教育活動を実施しています。



種蒔き作業

2010年から今まで、10年間植林活動を展開してきました。延べ参加人数は約1,200名、植林数は2,860本ほどになります。青森森林管理署と話し合いをし、県内の森林面積で国有林が一番大きく海に面していて、近くに川がある国有林を選定して「社会貢献の森」として借り受けて、広葉樹の苗木を植林しました。また、小学生や中学生、高校生、そして大学生の環境教育、森の働きと森林の持つ多面性を学び講座等を実施してきました。それと約3年置きぐらいに、「なぜ植林するか」という意義を忘れない為に、平内町で「植林の写真展」や「有識者を招いてのセミナーの開催」などもやってきました。

陸奥湾の高温障害から環境を守る植林・普及活動

活動地域：青森県東津軽郡平内町 助成期間(年)：1 2 3



コロナ禍のなか移動が自粛されていましたが、第10回目の海と山をつなぐ植樹祭は規模を縮小して開催し、地元平内町と隣の青森市のみで45名の参加となりました。記念セミナーには80名の参加があり、植林の必要性について有識者の先生からお話しいただきました。秋にはブナが3年の周期で種をつけたので採取し、秋蒔きを行い2021年の春には苗木整備も加わる予定です。大変な中でしたが継続して実施できたことは、とても意義があり、引き続き2021年度も開催していきたいと考えております。

- 活動回数/48回
- 活動参加人数/186人
- ゴミ回収量/200kg
- 植樹/80本(ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ)
- 整備した面積/1,000m

現地の声

<団体>

陸奥湾の海の環境は、温暖化を考えるととても大事な海であり、セミナーに参加した平内町の町民約50名もとても感慨深いものがあつたのではと思っています。



陸奥湾でのごみ拾い活動中



植林地での植林活動



植林地での植林活動後の集合写真

3 一般社団法人 ClearWaterProject

【代表者】 瀬川 貴之



「子供たちが目を輝かせて飛び込んでいくような、川、海、湖を未来の世代に」をビジョンに、「豊かな水辺環境と水辺文化を創出する」ことをミッションとして各種事業を運営・提供しています。代表はITエンジニア・コンサルタントの経験から水辺×ITを最初の基軸として始めました。水辺環境をよくするには、関係する水質、生物環境、治水、ごみ問題、水辺空間と要素に関わり諸問題の一つ一つ変えていく必要があり、また環境とは人と関わるリアルな環境であるため、ITとリアルな現場の環境コーディネーターを両輪に様々な解決に繋がる問題を手掛けています。



ふるさとの川づくり事業で子どもたちと川探検

- ・2014/7～川遊びファンを増やすITサービス「川遊びマップ」アプリと共にリリース。夏季PV数は100万に上る
- ・2014/11～流域活動団体を支援するクラウドファンディングサイト「カワサボ」リリース。2019年8月までに350万円の支援金獲得を実現
- ・2015/4～愛知県豊田市河川課による岩本川におけるふるさとの川づくり事業の住民参加のコーディネート参画。3年後には地元有志団体の発足・河川の一部自治運営に発展している
- ・2016/8～内水面遊漁券販売サービス「つりチケ」リリース。減少・高齢化する遊漁者を増やし内水面漁協の財務体質の改善強化につなげることで、その後の河川環境改善を進めていくことが狙い。2019年9月までで登録漁協は50、つりチケを通しての遊漁券販売額は450万円/年に成長。
- ・その他、環境学習講座講師、SDGs関連講座講師

2 NPO法人 しろい環境塾

【代表者】 渡邊 康夫



白井市平塚地区は下手賀沼を挟み柏市、印西市等に隣接した貴重な里山です。米、野菜、梨を中心に農業を営み北総谷津田の景観が維持されています。しかし都市化や農業者の高齢化により耕作放棄地や樹木竹林の荒廃が進み、手賀沼はかつて全国の湖沼で最も汚れた沼と言われました。都市化の波の中、この流域を整備し、貴重な里山で保全活動を行い、「安らぎのあるまちづくり」をテーマに ①荒廃した樹林・竹林の整備 ②耕作放棄地の再生活動 ③谷津田の復活と生きもの復活 ④地元と千葉ニュータウン市民と協働の保全活動 ⑤景観植物の栽培拡大 ⑥特定外来植物の除去などにより谷津田の自然環境の保全を行います。



子どもの環境教育「田んぼの学校」田植え

1. 平塚周辺の地区（白井市運動公園等の森、地元農家所有の山林・竹林、下手賀沼周辺、等）の山林・竹林の整備 9.2ha
2. 下手賀沼流域田畑の耕作放棄地の解消 3.7ha
3. 下手賀沼流域を活用した環境教育と生きもの復活活動
 - ・子どもの環境教育「田んぼの学校」（白井市後援）5日間 スタッフ100人 市民250人
 - ・手賀沼流域周辺生きもの調査 6日間 スタッフ30人 市民100人
 - ・金山落「カメの観察・調査」（大学との連携）2日 スタッフ30人 市民100人 大学関係者5人
4. 地元と千葉ニュータウン市民との交流
 - ・環境講演会（白井市後援）市民53人・麦、そば栽培講習会 市民50人
 - ・食と音楽の祭典「里山ひろばin平塚」参加団体6、地元農家野菜販売4 市民250人

美しい下手賀沼の景観復活!2020

活動地域：千葉県白井市平塚地区下手賀沼周辺 ■助成期間(年)：1 2 3



下手賀沼の土手の雑草の繁茂や不法投棄されたゴミの除去は、地元農業者の悩みの種であり、個人で対処することは難題でした。その土手を整備し、下手賀沼の自然や生きもの観察会を実施したことが、地域ミニコミ誌等で紹介されることにより、市民や地元の関心が高まりました。コロナ禍もあり、主に本会員による整備活動でしたが、2021年度は、地元農業者、地域公民センター関係団体や市民との連携による草刈り・ゴミ拾いの一斉整備活動を行います。

- 活動回数/21回
- 活動参加人数/240人
- ゴミ回収量/300kg
- 整備した面積/6,000㎡
- 動・植物駆除/980kg(特定外来植物ナガエツルノゲイトウ)
- その他の実績/耕作放棄地の活用(そば・麦栽培講習会)2,000㎡

現地の声

<団体>
コロナ感染予防のため多人数を集めたイベント開催が中止となったことは残念でした。参加数を限定した企画には定員以上の申込者があり、地域への浸透が進んでいる実感がありました。



水田に残ったナガエツルノゲイトウの地下茎や根の除去



下手賀沼に注ぐ河川(金山路)のゴミ回収後の参加者



下手賀沼船上からの採水と水質(COD)検査

ドジョウを守り、地域に根差す岩本川へ

活動地域：愛知県豊田市扶桑町 岩本川 ■助成期間(年)：1 2 3



コロナウイルスの影響で、プロジェクトの遂行には不安がありましたが、ほぼ予定通りに終わらせて良かったです。また、当初予定の行政(矢作川研究所)、地元(岩本川創遊会)、小学校(平井小学校)との枠組みもうまく構築できたことが大きかったです。一年目のプロジェクトの大きな目標である「岩本川生き物図鑑」の作成に向けた、生き物採集において各セクションとの協働が出来、無事に生き物図鑑も完成出来ました。

また、平井小学校の二年生児童の皆さんと共に生き物採集を実施しました。環境保護は生活であるという信念を考えると、学校での活動のみならず、帰宅してからの各家庭での気付きを継続させていきたいです。

- 活動回数/5回
- 活動参加人数/65人
- その他の実績/岩本川生き物図鑑5,000部

現地の声

<参加者>
・こんなにたくさん生き物がいてびっくりしました。
・魚以外にも様々な生き物が息していることがわかりました。
・いつも見ている川に絶滅危惧種がいるとは知らなかったです。



岩本川生き物図鑑の表紙



近隣平井小学校の児童と生き物採集



近隣平井小学校の児童と生き物採集説明

4

一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金

[代表者] 中川 亜希子



ブナ林や湿原など手付かずの自然には法令等の保護の枠組みがありますが、水田や草原、雑木林など伝統的な農林業によって維持されてきた自然(いわゆる里地・里山)にはそうした手立ては充実していません。しかし、里地・里山の環境に依存する生物は多く、メダカやタガメ、トキやコウノトリなど絶滅危惧種が増えています。このため、今後ますます増加する耕作放棄地や放棄林等を活用し、こうした自然を再生・保全すると共に、環境教育の場としても活用するため団体を設立しました。ミッションは、野生生物が息息可能な空間の拡大を通じて、生物多様性への貢献を図り、野生生物の本来の姿が身近に感じられる社会を実現に近づけることです。



活動を始めた経緯や自然再生の経過・課題がわかる紙芝居

全国を対象に、自然再生をはじめ、草刈や耕起など維持管理が必要な(二次的)自然の保全、私設自然保護区・サンクチュアリの設置、(環境破壊等からの)生物の一時退避や野生復帰などを行っています。活動実績として、福井県・兵庫県・奈良県に61サイト(1サイト=1たんぼ)があります。今回助成をいただきました奈良市大柳生地区では、県絶滅寸前種や県初記録種など予想を超える生物多様性が再生しています。また、福井県越前市では、絶滅危惧種で生態系の頂点に立つコウノトリが定期的に飛来し、近隣地区における自然繁殖が実現しました。いずれも地元と連携し、子どもから大人までどなたでも参加できる環境学習イベントを開催しながら、取組を進めています。

5

NPO法人 ハロハロ

[代表者] 村社 淳



当団体は、2008年よりフィリピン・パナイ島のNGO LOOBのフェアトレードボランティアへの関与を経て、活動地域と裨益者を拡大し、生計向上から教育まで広く地域発展事業を展開するNPOとして2012年に法人化されました。誰もが魅力的に働き生きることのできる社会を目指し、現在はフィリピンと日本人々のパートナーシップに則り、手工芸やマイクロクレジットなどを通じた生計向上事業、幼稚園から大学までの奨学金制度の運営などの教育支援事業、環境美化や国際理解への推進などの啓発事業を行い、相互に豊かな社会づくりに参加出来る人材や組織の育成を行っています。



教師グループとの打ち合わせの様子

[生計向上事業]

- ・フェアトレード:マニラ・セブの貧困地域で、女性の収入を10%向上
- ・マイクロクレジット:セブ・ボホールで、貧困層の人々が金融サービスにアクセスできる場の創出中

[教育事業]

- ・マニラとセブ全3校の幼稚園運営を支援。卒業生総数:260名
- ・マニラとセブで大学奨学金制度を運営し14名の大学への進学・継続に貢献

[啓発事業]

- ・セブ・ボホール2事業地で、行政と市民が連携しごみ回収処理とごみ拾い活動を実施中
- ・スタディツアーを通しフィリピンと日本相互の国際理解を促進

学びと実践のための谷まるごと棚田の自然再生プロジェクト

■活動地域: 奈良県奈良市 ■助成期間(年): 1 2 3



新型コロナ対策のため、6月まではイベント開催を見合わせざるを得ず、6月以降のイベントについては衛生管理を十分に行ううえで開催しました。ボランティアプログラムの企画は、家族で楽しめる内容へと変更し、家族割引を実施するなどの対策を行いました。結果、参加人数は大幅に増加し過去5年間で最大の参加者数を得ました(前年度比176%増加)。リピーターが増えていることから、2021年度は開催数を増やしつつ、プログラムのマンネリ化を防ぐため月別テーマを設定したり、マンパワー不足の解消のためリピーターのなかからボランティアスタッフを募集するなど、リピーターを活かした新しいアクションを講じたいと考えています。

- 活動回数/16回
- 活動参加人数/203人
- うちTOTOグループ社員/7人
- 整備した面積/2,550㎡
- その他の実績/活動区域周囲の自然調査

■現地の声

<参加者>

- ・生きものを触ったことがなかったのですが、触れるようになりました。
- ・自然再生作業が楽しかったです!毎日やってもいいです!
- ・スコップで土を掘ると地下水が本当に出て感動しました!



冬季生きもの調査



放棄水田の耕し



放棄水田の耕し後の区画

アルマー島における持続可能なマングローブ林形成プロジェクト

■活動地域: フィリピン共和国 ボホール州ヘタフェ市アルマー島(村) ■助成期間(年): 1



コロナの影響を受けながらの活動となり、2019年までに確立してきた小学校との連携事業こそ断念しましたが、活動目標の1つであった地域の子どもの巻き込みについては、直接地域の子どもへアプローチを行い、青少年事業として継続できました。組合としてはこの3年間を通して、組合員数が約3倍になり事業地人口の10%が所属するほどの活動に発展しました。組合員ではなくとも、地域清掃やマングローブ保全活動には村役場スタッフや一般の人々へ声をかけ毎回10~30名程度と一緒に年間を通して活動していく輪が地域に根付きました。市行政の活動承認が、活動への自信と、今後の持続可能な地域連携のもとでの活動を支える基盤構築につながりました。

- 活動回数/89回
- 活動参加人数/3,668人
- 受益者数/1,208人
- ゴミ回収量/7,914kg
- 植樹/80,000本(マングローブ)
- 整備した面積/30㎡
- その他の実績/分別したごみを本島の最終処分場へ運搬 2回 2,115kg

■現地の声

<受益者>

- 清掃活動とマングローブ植樹の正しいやり方をはじめて学ぶことができました!
- この活動が長く続くよう支えていきたいと思っています。



市の環境委員会と一緒に沿岸部清掃



ヘタフェ市の教育委員からの訪問



村の家族みんなでマングローブ保全活動を行う様子

6

公益財団法人 オイスカ

【代表者】 中野 悦子



オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基礎を守り育てようとする世界」を目指して1961年に設立されました。本部を日本に置き、現在36の国と地域に組織を持つ国際NGOです。当団体は、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなるよう研修を行っています。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通じた啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。



各国の「ふるさと」づくりを牽引する青年リーダーを育成中

オイスカでは理念の実現に向け、現在、以下の4つを柱として活動を行っています。

- ①海外開発協力:地域の資源を生かした農業や緑化活動を通じ、持続可能な産業の発展に貢献
- ②「子供の森」計画:36の国と地域の約5,200校において、子どもたちを対象にした植林活動及び環境教育を実施
- ③人材育成:開発途上国の地域産業を支えるリーダーを育てるため、国内4か所の研修センターにて、アジア太平洋の国々を中心とした青年への農業や女性生活改善の指導などの人材育成事業を実施
- ④啓発普及:日本各地で国際理解や環境保全に関するセミナー、農業や森林整備の体験活動、震災復興支援「海岸林再生プロジェクト」、環境教育活動などを実施

ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業

活動地域：インドネシア共和国 中部ジャワ州 ドゥマック県 助成期間(年)：1



対象校の教員や保護者の協力を得て、参加者数の制限や活動形態を修正し、エコキャンプの開催を次年度に延期した以外は、予定していた活動を全て実施しました。2小学校において整備された水環境施設は、土砂を盛り土して建設されたため、満潮時に浸水することがなくなり、子どもたちはいつでも安心して学校で用を足すことができるようになりました。トイレと合わせて設置された手洗い場は、子供たちの衛生意識の改善に資するのみならず、新型コロナウイルスの感染対策としてもその有用性が期待されます。「子供の森」計画を通じた環境教育活動では、校内に植えられた樹木や観葉植物などの管理、および学校庭園の整備を行い、対面授業が一時的に認められた10~11月と3月には、少人数の児童たちが参加し、マングローブの育苗とその植樹活動を実施することができました。

- 活動回数/56回 ●活動参加人数/814人 ●受益者数/8,124人
- 植樹/2,010本(オオバヒルギ、モクマオウ、ミズレンブなど)
- 設備設置/水環境施設(トイレ、手洗い場など)2箇所
- その他の実績/環境教育テキスト400冊製作

現地の声

<受益者>

これまでトイレが浸水した時には用を足すことができず、浸水していないときでも行列に並ばなければなりません。また、大便をするときには家へ帰らなければなりません。今は新しいトイレのお陰で、いつでも並ぶことなく用を足せるようになったので、とても嬉しいです。



2校におけるトイレの建設作業には、多くの保護者が協力



完成した2校/第2小学校のトイレ、もう浸水の心配もない



マングローブの苗づくりに向け、胎生種子を集める子どもたち

7

認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン

【代表者】 小寺 清



ウォーターエイドは、1981年に設立され、40年間にわたって水・衛生分野に特化して活動してきた国際NGOで、2013年に日本法人としてウォーターエイドジャパンを設立しました。2021年現在、アジア、アフリカ、中南米など計26か国で水・衛生プロジェクトを実施中です。水・衛生分野の専門性を活かし、各国の貧困層や取り残されがちな人々が清潔な水とトイレを利用し、手洗い等の衛生習慣を実践することができるよう、現地に最も適した解決策を実行しています。



配管工による給水パイプの接続(マダガスカル)

井戸やトイレなどの設備をつくるだけではなく、現地政府と住民が主体となって水・衛生の問題を解決していく「しくみ」づくりに注力しています。「しくみ」とは、

- ①どの地域で給水設備が不足し、どこかの給水設備が壊れているのかデータがあること
 - ②政府がそのデータに基づいて地域の水・衛生改善計画を立てること
 - ③維持管理の体制や水道料金の制度が整っていること
- 各国・各地域に、このしくみが完成すれば、その国・地域の人々の力で、すべての人が清潔な水と適切なトイレを使い、正しい衛生習慣を実践するという世界を実現できると考えています。

インドにおける地下水保全・給水設備整備プロジェクト

活動地域：インド共和国 アーンドラ・プラデーシュ州チットゥール県 助成期間(年)：1



地下水の過剰利用や干ばつによって、水の入手が困難になっているインドのアーンドラ・プラデーシュ州チットゥール県において、地域の人々が主体的に水・衛生のアクセス改善に取り組むしくみを構築するために、村水衛生委員会やユース・女性ボランティアのトレーニングを実施しました。また、地域の「モデル」として、水道管路敷設や壊れている給水設備の修復、地下水涵養設備を設置しました。

- 活動回数/12回
- 活動参加人数/924人
- 受益者数/13,983人
- 設備設置/水道設備から各家庭への管路敷設50か所、給水設備の修復30か所
- 衛生教育/422人
- その他の実績/
給水設備の維持管理トレーニング:女性・ユース103名
水保全・安全の計画・実施トレーニング:村水衛生委員会メンバー399名

現地の声

<受益者>

最近、給水設備の修理や水・衛生関連の情報発信を担当するユースを対象にオリエンテーションを実施しました。今後、村全体で、ユース・女性ボランティアと連携していきます。



村水衛生委員会が策定した計画を記した地図



水道管の敷設作業



居住地で家庭敷地内に接続した設備の水流を確認

8

認定NPO法人 ICA文化事業協会

[代表者] 佐藤 静代



当団体は、1980年代より途上国を中心に貧困削減、自然環境保護、女性と子どものエンパワーメントなどの国際協力・地域開発事業を行っています。ICAインターナショナル(本部:カナダ)に加盟しており、活動は35カ国のICAネットワークと連携し、実施しています。

「そこに住む住民が、地域の専門家である」と「住民が積極的に地域開発に参加してこそ持続可能な発展が可能である」という信念に基づき、住民参加型の活動を実施することで、文化・社会・経済のバランスのとれた地域社会形成と人材育成を行い、世界が直面している様々な課題の解決を目指しています。



児童は一人1本の木を植え、育てる

【主な活動】(2020年度実施事業)

- ・ケニア:半砂漠地域の学校での環境教育を兼ねた植林活動
- ・ケニア:学校給食配布事業
- ・ネパール:震災被災地での生活インフラ復興と住民の生活向上事業
- ・ネパール:山間部女生徒の就学率向上と生計中の衛生状態改善を目指した使い捨てナプキン製造支援と啓蒙教育
- ・インド:環境破壊の進む農村部での環境教育を兼ねた植林活動

9

認定NPO法人 難民を助ける会

[代表者] 堀江 良彰



当会は、日本の善意の伝統に基づき1979年に設立された団体であり、「一人ひとり多様な人間が、各々の個性と人間としての尊厳を保ちつつ共生できる、持続可能な社会をめざす」というビジョンを掲げて活動しています。また、「困ったときはお互いさま」をミッションとし、紛争・自然災害・貧困などにより困難な状況に置かれている人々に必要な支援を届け、明日の社会が今日よりも豊かで希望の持てるものになるように支援を展開しています。このような活動を日本を含めて世界の人々のご支援を得て実践することを通じ、誰もが世界の平和と安定に貢献する主体たり得ることを示すとともに、少数派の人々が拒絶され、弱者が取り残されないような社会の実現に向けて努力しています。



難民の子どもたちに教育支援などを行っています(ウガンダ)

2019年度は、正会員161名、協会員630名、マンスリーサポーター1,681名、6,366の支援者・学校・企業・団体の皆さまより、のべ29,684件のご寄付をお寄せいただきました。世界15ヵ国(ラオス、カンボジア、ミャンマー、インド、バングラデシュ、パキスタン、アフガニスタン、タジキスタン、トルコ、シリア、スーダン、ケニア、ウガンダ、ザンビア、日本)で、36の支援事業を実施し、30万5,342名の方々に直接支援を届けました。繰越金を除いた当期支出合計は、17億2,864万円です。役員は24名(無償)、職員は400名、(2020年3月時点、東京事務局52名、佐賀事務所2名、海外駐在員28名、現地職員318名)です。また、日本国内で約350名のボランティアの皆さまにご協力いただきました。

インド干ばつ地域での飲料水確保のための井戸再生事業

■活動地域：インド共和国マディヤ・プラデーシュ州ジャブア郡 ■助成期間(年)：1



コロナ感染者数が多いインドでは、2020年3月からインド全土で大規模なロックダウンが敷かれ、様々な活動への制限がありました。しかし幸いにも事業地ではコロナ罹患者がほとんど出なかったため、全て事前の確認が必要でしたが、行政からの工事への規制はなく、予定していた古井戸6基の再生工事を実施することができました。その後、9月にロックダウンの段階的な解除に伴い、100人以下の集会が可能になったため、井戸維持管理研修も実施することができました。また、12月から新たに追加で3基の井戸再生工事を実施しました。加えて、モニタリングについては、日本で調査項目を作成し、現地スタッフに速隔で指示しながら、現地スタッフが中心になりモニタリングを実施しました。

- 活動回数／11回 ●活動参加人数／162人
- 受益者数／555人
- 設備設置／古井戸再生9基 ●衛生教育／86人
- その他の実績／井戸維持管理研修2回
(参加者計86名、本研修の一部で衛生研修を実施)
エンドラインサーベイ(聞き取り対象者76名)

■現地の声

<受益者>

井戸再生前と比べ、格段に水汲みに費やす時間が減りました。また、水汲みを子供にさせている家庭では、短時間で終わらせることができるため、学校の宿題や友達との遊びに時間を費やすことができるようになり、子供の健全な育成につながっています。



古井戸の蓄積した泥などを掻き出す



完成した井戸で水汲みをする女性達



動画を見ながら手洗い方法の練習をする参加者

トイレで就学応援!難民児童を支える衛生プロジェクト

■活動地域：パキスタン・イスラム共和国 ハイバル・パフトゥンハー州ハリプール郡 ■助成期間(年)：1



小学校3校を対象とし、校内の衛生環境を改善することを目的に行いました。KTS校は、児童数が370人と多いにもかかわらず、使用できるトイレが1基しかなく、手洗い場もありませんでした。ダムカル校、PSG082校では、当会や国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) により、井戸やトイレなどの衛生施設が整備されていましたが、衛生教育がカリキュラムに含まれておらず、教員が衛生について児童に教える機会がほとんどありませんでした。また、PSG082校では、机・椅子が不足しており、児童は教室の床に座って学んでいました。本事業において、KTS校でトイレや手洗い場などの衛生施設を整備し、PSG082校にはサイドテーブル付きの椅子を供与しました。また、全3校で、教員・保護者向けの衛生研修や児童向けの衛生啓発イベントなどを開催しました。

- 活動回数／28回 ●活動参加人数／2,700人
- 受益者数／8,430人
- 設備設置／トイレ新設・改修8基、手洗い場・貯水タンク2,000Lなど新設7基
サイドテーブル付き椅子180脚
- 衛生教育／2,400人

■現地の声

<受益者>

以前は学校に使用できるトイレが1基しかなく、児童も教員もトイレを我慢しなければならぬことがよくありました。たくさんのトイレが整備されたことで、そんな心配がなくなりました。



PSG082校で行った、教員・保護者向けの衛生研修



KTS校で行った衛生啓発コンテスト、全児童に歯ブラシと歯磨き粉を配布した



KTS校に整備した手洗場を利用する児童たち

11

NPO法人 森のライフスタイル研究所

〔代表者〕 竹垣 英信



森林と触れ合った体験が乏しく、森づくりへの理解が深まっていない多くの人々に対して、楽しさを取り入れた多彩な活動を展開するために、2003年に設立しました。ごく普通の人が当たり前のように森づくりに関心を持てる社会を創造すると共に、森林の育成・保全に寄与することを目指して活動を行っています。



森と人をつなぐツリーライミング体験

- ・森林保全活動(千葉県、東京都、長野県)
津波の被害を受けた海岸防災林や山火事跡地、特別緑地保全地域など人手を必要としている森林の保全活動を、都市住民や企業ボランティアや地域行政、地元住民らと共に行っています。
- ・シングル世帯の子ども向け自然体験活動(関東地方全域)
シングル世帯の子どもたちの自然体験の企画創出を通じて、子どもの健全な発育のサポートをするためのさまざまなアウトドアアクティビティを行っています。
- ・企業の社会貢献活動のサポート活動
間伐材の活用を進めたい森林側の要望と社会貢献活動の充実を図りたい企業側の要望を解決するための「林産物活用プログラム」を企画開発。企業の会議室を会場に社員参加を得ながら進めています。

10

認定NPO法人 道普請人

〔代表者〕 木村 亮



「住民自身が実施できるシンプルな工学技術で、開発途上国の人々を幸せにしたい」というコンセプトが原点となり、当団体の理事長である京都大学の木村亮教授により「土のう」による道直し技術が開発されました。この技術の人々の手に届ける移転活動は「自分たちの問題は自分たちで解決する」という意識の芽生えにつながります。この意識を世界に広めるため、2007年に当団体が設立されました。住民が自ら汗を流して、普段利用する自分たちの農村インフラ(農道、橋、給水設備など)の改善を行うことによって、人々の生活環境改善に向けたやる気と自信を引き出します。農村の自発的な開発に向けたきっかけづくりをし、世界の貧困削減に寄与することを目的としています。



若者に対する土のう道直し訓練(ブヤンガブ県)

2007年の団体設立以来、29か国で活動を展開してきました。土のう工法を用いた道直し訓練を軸に育苗や植林などの環境問題にも取り組んできました。累計で184kmの農道を整備し、訓練参加者は18,198名にのぼります。「自分たちの道は自分たちで直す」のモットーを掲げ、訓練を受けた若者たちが自ら施工会社を立ち上げるサポートも行っています。会社が道路維持管理に関する公共事業に参画するというビジネスモデルを採用し、活動国政府からは高い評価を得ています。特にサブサハラアフリカ諸国には力を入れており、2018年にはルワンダ事務所、ウガンダ事務所の新規立ち上げを行いました。アフリカ全土への土のう工法や簡便環境整備を普及させるべく、活動を継続しています。

ビクトリア湖ジンガ島の安全な水へのアクセス向上と緑化推進

活動地域：ウガンダ共和国 ワキソ県 ブッシ副郡 ジンガ島 プガング村、バカシ村、カアン村、キノガ村 助成期間(年)：1



ビクトリア湖に囲まれたジンガ島は、公共水道や電力の普及がなされず、政府から忘れ去られた辺境の地です。ジンガ地区の4村では慈善団体が整備した1~2基の浅井戸を多くの世帯で共有しています。本事業では、4村計24箇所に雨水集水タンクを設置し、4村住民計936世帯が安全な水にアクセスできるようになりました。住みよい環境づくりを目指し、住民や小学生計264名を対象に安全な水利用や衛生に関するトレーニングを実施しました。島内の小学校、バカシ村コミュニティに1箇所ずつ、合計2箇所のモデル・ナーサリー(地域の手本となって欲しいという思いを込めて)を建設・拡張、15種29,953本の植林を行うとともに、継続して運営できる体制が整いました。

- 活動回数/10回 ●活動参加人数/1,454人 ●受益者数/4,225人
- ゴミ回収量/180kg ●植樹/29,953本(針葉樹(教材):ムシジなど、広葉樹(硬材):コルディア・アフリカーナなど、果樹種:マンゴ、アボカドなど(計15種)) ●整備した面積/270,000㎡ ●設備設置/雨水集水タンク、タンク基盤及び蛇口24基、モデル・ナーサリー2箇所 ●衛生教育/264人
- その他の実績/新たに設立した水利利用者委員会:4グループ(各グループ4名で構成)

現地の声

<受益者>
このプロジェクトが始まる前は、濁った湖水を生活用水に利用していたため、肌の病気が湿疹がひどかったです。また、衛生状況が悪くかつてはコレラなど流行していたため、手を洗うことや身の回りを清潔にすることを学びました。



バカシ村コミュニティ・ナーサリーの整備



4村への衛生啓発資材の配布



4村でのタンク維持管理研修

八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト

活動地域：東京都八王子市上川の里特別緑地保全地域 助成期間(年)：1 2 3



40年間管理が行き届かず暗い林内になってしまった八王子市上川の里山に手をくわえ、明るい森へと変えていく環境活動です。また、当団体が耕作を取り戻した田んぼの維持活動も行うことで、森と水のつながりを理解できる人材の育成も担います。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、森林ボランティア等の参加による里山整備活動が計画どおりに進まず、団体職員や外部委託による少数での活動が中心となりました。また、田んぼの維持活動についても、実施できずに悔しい思いをしました。新たな試みとして、野生動物の生息を可視化させるためのセンサーカメラを導入し、里山内に取り付け、定期的なモニタリングを行っています。また、専門家に依頼し、上川の里の植生群落構造の把握やそれに付随する管理方法を確立するための調査を行いました。

- 活動回数/1回 ●活動参加人数/12人
- 整備した面積/5,000㎡
- その他の実績/
・伐った木々の活用:階段の新設や補修を行うための横木(140本)
・里山の管理方法の確立

現地の声

<参加者>
趣味でガーデニングをしていますが、山での作業は初めてです。森と水の関係や、森を育てていくには人手が必要であることも実感できました。また機会を見つけて参加したいです。



照葉樹を開き、明るい森へと改善していきます



間伐した木々で作った階段(製作途中)



間伐した木々で作った階段(完成)

12 NPO法人 新潟水辺の会

【代表者】 相楽 治



当会は、1987年にドキュメンタリー「柳川堀割物語」の上映会&シンポジウムの開催を機に、身近にある川を学習する「水辺を考える会」として発足しました。その後、ドブ川通船川の再生に取り組み、2002年にNPO法人となりました。信濃川を鮭の遡上・降下する大河に復活させる活動など、幅を広げ、新潟の水辺環境の改善を行ってきました。現在は、「漏版」の持続可能な開発目標(SDGs)として、水良し、住んで良し、来て良し、商い良し、子ども良しの「五方良し」を掲げ、環境資源循環の空芯菜湖上栽培や子供たちの潟ウォーク、エジソンメガホン実験などを行い、人力・帆力の浮島航行や舟のシェア利用プラットフォームの実現をめざし活動しています。



2019年～濡ったままの潟中を、水害疑似体験で歩く防災研修体験会

1. 鳥屋野潟がってんプロジェクト:5月から10月に空芯菜の湖上竹筏栽培、浮島がってん丸の航海、防災体験の潟の利用による水辺の魅力発信。学校の学習フィールド利用が拡大中。
2. 通船川の活動:年4回の船による川掃除と河口の森公園の草刈に建設会社の方々や大学生、高校生が参加。夏の中流川祭りでのカヌー乗船体験支援。つくり沿川まちづくりの会(旧通船川・栗ノ木川下流再生市民会議)開催支援。
3. 鮭の発眼卵の河床埋設放流:毎年12月に鮭の生態的な自然復活をめざして里川に放流中。
4. 身近な水環境全国一斉水質調査:2004年～毎年6月に実施し、2020年で17回になる。
5. 会報「新潟の水辺だより」発行:年2回300部を会員や関係者に配布。ホームページ掲載。
6. 水辺の会シンポジウム開催:年末に定例で1年の総括と次年度に向けた方針を公開で協議。

鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト

活動地域：新潟県新潟市鳥屋野潟および新潟市内 助成期間(年)：1 2 3



2020年度の活動は、昨年度の基盤の上での進化を図りました。春からの新型コロナウイルス禍の中での取り組みになったため、ディスタンスを取りつつ、アルコールやマスク等の準備などを徹底して取り組みました。

当事業2年目で、①空芯菜の潟湖上栽培生産→②2つの小学校の総合学習「もったいない栄養分」利用の理解→③保護者への口コミでの地域社会への普及→④直売所やオーナーなどでの販売展開→⑤食材未満の「家畜館」への展開ができています。この5つのつながりで潟中の栄養塩の潟外搬出=環境循環システムの小さなサイクルシステムが見えてきました。コロナ禍でも、ステップアップした1年でした。

- 活動回数/60回 ●活動参加人数/1,250人
- うちTOTOグループ社員/20人 ●植樹/1,200本(空芯菜)
- 整備した面積/500㎡
- その他の実績/2小学校127名の児童に空芯菜学習実施。湖上栽培した空芯菜を潟周辺の4小学校の給食に5回提供 他

現地の声

<参加者>
・潟に関わる人や団体、特に子ども達とのネットワークが広がって良かったです。
・より多様な人々が多様な形で鳥屋野潟に触れて笑顔になれたらいいと思います。



学校の中庭の空芯菜と潟湖の竹筏栽培の空芯菜と比べて学習



空芯菜水耕栽培のもっとも大変なコンテナ設置



密になっている竹林の間引き

13 一般社団法人 海っ子の森

【代表者】 山下 達巳



当法人は、海の森づくりをテーマに、2005年から活動を始め15年が経過しました。当初の目的であった磯焼け対策であるアラメ・カジメの稚苗の植林に加え、海岸・海中清掃・ごみの持ち帰り活動などを実施し、海の環境負荷を減らす活動を行ってきました。その後、多方面からの参加者や技術者との交流の中から、海洋ゴミ(海岸の海ゴミ分別と家庭内食品廃棄ゴミ)の削減と農業資源への活用取り組みを行うようになりました。具体的には、ワイン用葡萄畑や安納芋畑等への貝殻、海藻肥料の施肥などです。海岸漂着物には海藻類などの海の資源とプラスチックゴミなどがあり、分別による資源化を重要課題として新たな視点で活動に取り組んでいます。今後もSDGs活動の一つとして海の資源を無駄なく有効に活用する活動を進めていきます。



海岸清掃と海ゴミ、海資源の分別収集

1. 海・山・川の自然と水環境保全活動、海洋肥料を使って農林業との共生。
・魚付き林の保全、海岸・河川の清掃、熊野古道の歩道ルートの清掃・整備
2. 海の植林(藻場再生事業)活動
・市民および漁業者が自らの手でできる自然石を使ったアラメ、カジメの植林(実績計2,190個)、接着金物による岩礁直接つけ新技術の開発と実施
3. 活動参加者との環境学習、講演会の実施
4. 海洋ゴミ(海岸の海ゴミ分別と家庭内魚介類廃棄ゴミ)の削減と農業資源としての貝殻、海藻肥料の施肥活用
5. 低炭素杯(脱炭素チャレンジカップ)での活動内容の発表、2017、2019にそれぞれ最優秀活動賞受賞

漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減

活動地域：三重県尾鷲市、紀北町、伊勢市、鳥羽市 助成期間(年)：1 2 3



「漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減」をテーマに3か年の計画の2年目を完了しました。コロナ禍で感染予防のため限定された参加者での活動となりましたが、計画通りの行事が実施できました。

今年度は感染防止のため参加者は限定した人のみとなり、交流の拡大には大きな制約となりました。今後も厳しい条件での活動となりますが、活動内容はSDGsの趣旨に合致したものであり、多くの賛同が得られる内容であることから、工夫しながらこの活動をさらに広めていきます。

- 活動回数/8回 ●活動参加人数/70人
- ゴミ回収量/20kg
- その他の実績/海岸漂着ゴミから肥料用海藻の収集4袋、家庭内牡蠣殻等収集1袋

現地の声

<団体>
日本国内においてもSDGsの取り組みが非常に重要視されてきており、我々の活動もSDGsの目標を明確にすることで、活動の意義や対象がより明確になり、さらには参加者の賛同を多く得られることに気付くことができました。



海藻・貝殻肥料で育成した安納芋収穫イベント



海藻・貝殻粉末肥料の作成



作成したプランター用海藻・貝殻粉末肥料

15

NPO法人 リアスの森応援隊

【代表者】小野寺 誠



気仙沼市は、豊かな森が海洋資源に大きな影響力を持つという「森は海の恋人」運動の発祥の地である。当団体は、森林の適正な整備を推進することにより、環境の保全、向上に資するとともに、森林愛護や自然保護の啓発に関する事業などを行い、もって、公益の増進に寄与すべく設立。東日本大震災により沿岸部が壊滅的な被害を受けた当地域から、豊かな海づくりにもつなげる林業の必要性の警鐘を鳴らし、市内外からの林業従事者の拡大を軸とした里山コミュニティを創造することにより、担い手不足の解消、被災地の生業作り、衰退する一次産業(林業)の生業化のモデル作りを目指しています。



第3回気仙沼森林フォーラム

森林保全の必要性を啓発し、自伐林業家として林業を生業とする人材を養成すべく、自伐林業家養成塾「森のアカデミー」(各種林業研修)を行っており、令和2年度までに19期開催、延べ約720名の卒業生を輩出しています。幅広い層への森林保全の啓発イベントとして「森林フォーラム」や「森森フェスタ」を開催しています。また、生徒児童の総合学習の支援も、要請に応じて実施しています。さらに林業機具・機械のレンタルや、林業家にとっては難解な補助金制度の申請手続き補助など、個人の自伐林業家のサポートも行っています。平成30年度から、人手不足を必要とする山主さんと、林業の技術がある人をマッチングする「森ワーカー制度」も展開し、令和2年度は、森林整備を行う森ワーカーの人数が倍増しました。

14

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

【代表者】石井 実



当協会は、大阪府内に残された貴重な湿地や動植物をはぐむ自然環境を保全するとともに、身近な街の緑化を市民の参画や協同による活動を主体として推進するために、大阪府により1989年に設立されました。「みどりの未来をわたしたちの手で」をキャッチフレーズにみどり豊かで快適な環境づくりに取り組んでいます。生物多様性の保全が世界の主流となる中で、里山をはじめ湿地環境でも活動を展開しています。また、近年は「森林ESD」(持続可能な社会づくりに向け、森林・里山を活用する人材育成システム)にも注力しています。今後も緑とのかかわりが希薄になった都市部において、新たな自然とのかかわり方を発信していきます。



タガメの田づくり 田植え

和泉葛城山ブナ林(貝塚市・岸和田市)、三草山ゼフィルスの森・タガメの田づくり(能勢町)、地黄湿地(能勢町)をはじめ、大阪府内で貴重な動植物や自然環境の保全を行ってきました。特に近年は生物多様性豊かな能勢での活動に注力しています。

また、「緑の募金」において、大阪府の取りまとめ団体として募金を呼びかけ、集まった募金を活用し、学校や地域の団体に交付し、市街地緑化や国産材利用の促進を行ってきました。

地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全

活動地域：大阪府豊能郡能勢町 地黄区 助成期間(年)：1 2 3



湿地特有の希少生物が生息する地黄湿地において、市民ボランティアによる湿地の整備、生き物のモニタリングが継続できる仕組みづくりを目指しています。今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて活動の縮小が余儀なくされました。しかし、しばらく見られなかったハッチョウトンボが14年振りに確認され、トキソウやサギソウ等の良好な生育が確認されるなど、過年度からの保全活動の成果が見られました。

また、地元高校生の環境学習で保全活動の紹介や湿地その物やそこに住む生きものの観察や水質調査を現地で行いました。あわせて学術機関と連携した科学的な生物調査を行い、保全活動に反映させながら生物多様性豊かな湿地を保全しました。

- 活動回数/22回
- 活動参加人数/188人
- 整備した面積/10,000㎡
- 動・植物駆除/1匹(ウシガエル)
- その他の実績/NHK「ニュースほっと関西」(地黄湿地でトンボを見つける)放映

現地の声

<参加者>

- ・色々な動植物が見られました。時間の流れを感じました。
- ・自分が知らなかった動植物が知れました。植物調査をして、場所が違っただけで、見れる植物が違いました。



水生動物調査



サギソウ観察会



植生調査

豊かな海と森を作る自伐林業家の養成

活動地域：宮城県気仙沼市 助成期間(年)：1 2 3



当法人の主軸となっている自伐林業家養成塾「森のアカデミー」は、感染拡大の局面を脱した秋に予定の半分の日程の開催となりました。また今年初の試みとして、厚労省林業就業支援委託事業20日間コースを受託し、全国から10名の参加者を迎え、林業の就労人口増に貢献しました。林業の就労者を拡大すべく制度化させた「森ワーカー制度」では、新規登録者が17名増え、その内13名が実際に就労しました。また、中山間地活性化の取り組みとして、耕作放棄地の利用(ホップ栽培)にも今年度初めて着手しました。森カフェ(林業なんでも相談会)の認知度が高まり、限定日以外の相談者も増え、水資源保全につながる森林整備の大切さが浸透してきたと感じることが出来ました。

- 活動回数/60回
- 活動参加人数/500人
- 整備した面積/95,500㎡
- その他の実績/自伐林業家養成塾「森のアカデミー」、相談会「森カフェ」、体験会「森トレ」などが評価され、令和2年度宮城県「森づくり表彰」を受賞

現地の声

<団体>

地方は少子高齢化に伴い、人口減、一次産業の担い手不足が深刻ですが、森林、里山、中山間地域をフィールドに、さらに活動を発展させて、関わる人口を増やしていきたいと考えます。



第19期自伐林業家「森のアカデミー」チェンソー研修



第19期自伐林業家「森のアカデミー」チェンソー実技



徳島の橋本先生を招聘し山に優しい道づくり

16 ほたる野を守るNORAの会

【代表者】 蔭山 盛久



1992年の団体設立当時、この田園地区は通称「ほたる野」と呼ばれ初夏には平家ほたるが乱舞する斜面林を有する里山でした。1998年頃には近隣の土地造成などの影響でほたるは激減し、高齢化によって田んぼの休耕田化も進みました。そこで、良好な自然環境にしか生息できない「ほたる」をこの里山のシンボルとして、将来に向けて絶滅させないようにすること、休耕田化に歯止めを掛けることを目指してこの地区の環境保護活動を開始しました。この素晴らしい自然環境を次世代の子どもたちへ確実に引き継いでいきます。



身近な習志野の自然展

- ・稲作事業:休耕田化に歯止めを掛けるため、田植え・稲刈り・餅つきを当会の定例事業として、市民・近隣小学校の皆様と、一緒に活動してきました。参加者も年々増加し、この3事業の2019年までの年間参加総数は1,300名に上り、地元の皆様には季節の風物詩として認知されてきています。但し2020年度はコロナ禍の影響で、市民参加行事は全て中止しました。
- ・NORAの会の維持発展:TOTO水環境基金の助成により、農機具の購入が実現し、高齢化する当会員でも効率的な農作業が出来るようになりました。このような変化により、比較的に若い年齢の会員の入会も増え、将来への展望も明るくなってきております。
- ・ホテルの自然回帰事業:「ホテル飼育の専門家の指導・ホテル増殖実験設備の設置」もTOTO水環境基金の助成により実現できました。根拠のある対応が出来ましたので、長期戦ながら、これからのホテル自然回帰活動がブレークスルー出来ると確信しています。

17 一般社団法人 サーフライダーファウンデーションジャパン

【代表者】 中川 淳



1984年にカリフォルニアでサーファーにより設立され、1993年から日本で活動を始めた当団体は、主に海水の水質調査活動を行ってきました。2011年には一般社団法人となり、海岸エリアを中心とした環境保全の啓蒙活動を、健康的で持続可能なライフスタイルの中で実現することを目的に活動しています。海水の汚染は海岸エリアの市民にとって日常の問題であり、海岸を有する市町村にとって観光資源を保全するためにも重要な課題です。また「森林環境や住環境、河川などの「水の繋がり」の最終地点である海岸や海中の状態を知ってもらうことは、地球全体の環境保全に繋がる」という理念のもと、他団体との連携を深め、特に子どもたちへ環境教育に力を入れています。



イベント出展

水質調査ではホームページの地図上で調査対象地域の水質状態を公開してきました。これらのデータを基に藤沢市へ下水道施設の改善を求めてきましたが、合流式であった辻堂浄化センターの放流水の汚濁負荷削減対策事業を、平成30年度着工することが決定しました。啓蒙活動としては海のスポーツや文化、また地域活性を目的としたイベント等に出席しプラスチックごみのワークショップやビーチ及びタウンクリーン活動を行っています。「海の寺子屋」の活動の一つとして地域住民の海岸環境への意識向上を図るプログラムを実施、また行政への海岸環境改善の要望書提出等の働きかけを実施しています。

「きみとぼくの心の故郷を次世代に!」 田んぼのある里山「ほたる野」を皆さまの心の故郷に!

活動地域: 千葉県習志野市 助成期間(年): 1 2 3



コロナウイルスの影響を受けて、定例の活動(米作り)以外の本年度の計画は全て中止となり、市民の皆様・近隣小学生との接触が出来ず、非常に残念な一年でした。しかし、多くの方々との直接接点の代替として、HPの充実・メールや口コミによるNORAの会の紹介・近隣大学生研究論文作成協力、などを実施しました。「ホテル野祭り」も、中止いたしました。昨年度助成対象活動「ホテル増殖実験設備」の整備・改良に、「ホテル野祭り」の費用を充当させていただき、我々が目標を立てているホテルの自然回帰に向けて、更なる前進が出来ました。

- 活動回数/1回
- 活動参加人数/53人
- うちTOTOグループ社員/2人
- その他の実績/

- ・定期的活動(田植え・稲刈り):会員による活動のみ、延べ参加人数111名
- ・追加活動①環境保護活動の展示会及びパネルディスカッションを開催、20名参加。展示会来場者は145名。②野鳥観察会は2度実施、延べ22名の参加。

現地の声

<団体>
習志野の自然環境を「我心の故郷」と記憶に残し、次の世代に、自然環境維持の大切さ・豊かな自然環境下での豊かな情緒とを持続して貰いたいことを目標に、引き続き活動して参ります。



稲刈り会後の集合写真



脱穀機と作業風景



稲刈り機と作業風景

海岸のビーチクリーンを通じた水環境への意識向上を図る

活動地域: 神奈川県鎌倉市・藤沢市・茅ヶ崎市 助成期間(年): 1 2 3



本年度は、新型コロナウイルス感染予防のため参加者を募っての活動は自粛し、個人での活動の呼びかけをしました。そこで「海の寺子屋」の活動を動画配信することに変更し、YouTube番組を制作し配信しました。これまでのプログラムである海や海岸の観察・海洋学者による海洋ゴミの紙芝居、プラゴミを利用したワークショップ等を動画にまとめ、「住環境から海中にいたるまでの水の繋がり」を認識し「自分自身でできること」を考えるきっかけ作りに努めました。

なお、番組制作は数回に渡る予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大および緊急事態宣言の発動などにより中止し、それに伴いこれまで倉庫兼水質調査室として機能していた建屋を今後「海の寺子屋」の活動配信できるスペースとして利用できるようにしました。

- 活動回数/2回
- 活動参加人数/14人
- うちTOTOグループ社員/5人
- その他の実績/「海の寺子屋」動画配信

現地の声

<参加者>
身近なはずの海やゴミのことにもかかわらず、ほとんどのことを知りませんでした。環境問題を楽しく学べる場がもっと増えてほしいです。



ビーチクリーン



海の寺子屋番組制作



海の寺子屋番組制作

18 NPO法人 小網代野外活動調整会議

【代表者】 岸 由二



当団体は、神奈川県が所有する三浦半島「小網代の森」の自然の維持管理作業を、県・三浦市・公益財団法人かながわトラストみどり財団と協働して推進する非営利団体です。

1983年「ボラーノ村を考える会(※)」として活動を始めて以来、流域思考を組み込んだ自然共生ビジョンを提案し、35年以上実践し続けています。現在は、設立の基盤となった諸団体が新たに形成するネットワークとも連携しつつ、小網代の森の自然環境保全のための各種事業を推進しています。

※「ボラーノ」とは、作家宮沢賢治の童話に出てくる、人と自然が共生する理想の共同体にある広場の名前



浦の川生物調査

小網代の森の中央を流れる浦の川流域の笹刈り、湿原の再生、様々な生息環境の整備を『流域思考』に従って進めてきました。その結果、絶滅危惧種であるタコノアシが回復し、様々な湿原環境の創出によりその他の湿原植生も回復が確認されました。

また、泥湿地を好むサラサヤンマの個体数の増加が確認されました。河川ではカワニナ、石巻貝などが増加し、それを餌とするゲンジボタル、ヘイケボタルが多数見られるようになりました。また、アユの遡上も確認されました。2019年度より花さく小網代・花さく三浦ハマカンゾウプロジェクトもすすめ、地域とのつながりでハマカンゾウを増やす活動を始めています。

訪問者に対する有料ガイド(学校、団体、個人など)や無料のボランティアウォークを実施して『流域思考』による多自然型生態系創出法の普及を進めています。

小網代の森「ヤシャブシ谷戸」におけるホタル舞う水辺環境の創出

活動地域：神奈川県三浦市 助成期間(年)：1 2 3



3年目の整備となった2020年度、2年間の順調な整備が功を奏し、5月末から6月にかけてのホタルの時期に、ヤシャブシ谷から約100匹のホタルを確認しました。ヤナギテラス「ヤシャブシ谷」は小網代の森の新たなホタルの観察ポイントとなっています。ホタルの水路だけでなくヤシャブシ谷の入口周辺の整備をさらに進め、ハマカンゾウの居所も拡大し、ヤマユリの保全も始めました。

また、昨年からの懸案であったトンボの産卵地としての整備も進めました。しかし、コロナ感染拡大に伴い森の閉鎖、さらに度重なる豪雨により危険木があったことや、スズメバチの大量発生により今年度も法人スタッフも森に立ち入ることが出来ない期間が続きました。それでも3年間の活動成果はとても大きく、ホタルの確認が数匹だった「ヤシャブシ谷」をホタルの観察ポイントにすることが出来ました。

- 活動回数/10回
- 活動参加人数/61人
- 整備した面積/24,000㎡

現地の声

<団体>
ヤシャブシ谷からこんなにたくさんのホタルが見られるとは感無量です。



ハマカンゾウ移植



谷底管理作業



伐採作業

19 笹尾川水辺の楽校運営協議会

【代表者】 松尾 一四



当会は、自然と触れ合い、水辺と関わる親水施設および環境学習の場として2004年に開校した「笹尾川水辺の楽校」の運営団体です。活動地である笹尾川は、かつては貴重な舟運水路の一部であり、長い歴史を持つと同時に北九州市の水道水源になっている河川です。笹尾川の水質保全・向上を図るためには、河川の環境を守っていくことが重要であり、地域の子どもたちを始めとする住民の方々の川への関心を深めることにより、自分たちの手で河川を大事にし、河川環境を守ろうという心を育てることを目的としています。



いきいき子ども講座の透視度試験

当会の事業目的は、河川環境整備と水環境啓発運動となっています。水環境整備は、私たちの活動拠点となっている約1haの河川敷の整備となっており、年に2回の除草作業を行っています。TOTの水環境基金との協働作業で大いに助かっています。また、イベント会場としている芝谷橋橋脚に、香月中学校美術部の協力で壁画を制作しています。

【水環境啓発活動】

- ・幼稚園児対象:サケの放流大会
- ・小学生対象:水辺で遊ぼう!2回、みずしるべ1回
- ・中学生対象:カヌー指導者安全教室
- ・地域住民対象:ナイトリバー、水位目安標記事業

水辺の楽校を拠点とする河川環境整備と水環境啓発運動

活動地域：福岡県北九州市八幡西区楠橋 笹尾川地先 助成期間(年)：1 2 3



事業目的の河川環境整備と水環境啓発運動は、当初の目的をほぼ達成できました。

【河川環境整備】

- ・TOTの水環境基金との協働作業は、コロナ感染防止の立場から相談の上、感染防止対策を行い実施しました。
- ・イベント会場としている芝谷橋橋脚の壁画は、香月中学校美術部からの要請もあり、夏休みが短く、土・日を利用して、壁画「コスモス鑑賞会」を完成しました。

【水環境啓発運動】

- ・水辺で遊ぼう!、みずしるべ 各1回
- ・炭浸漬浄化・浸漬竹炭の肥料効果試験、水辺に賑わいを目的に「ナイトリバー」開催
- ・くすばし少年消防クラブを対象にレスキュー講習会を開催
- ・視察研修会は、環境型の流水ダムの建設現場、立野ダムを視察研修
- ・「全国川ゴミネット」に参加し、プラスチックごみの分別収集を開催(2回/年)

- 活動回数/14回
- 活動参加人数/1,417人
- うちTOTグループ社員/57人
- 整備した面積/8,000㎡
- その他の実績/住民協働水質試験データ(4回)

現地の声

<参加者>
・笹尾川は遠賀川の自然型の魚道の役割を果たしており、水生生物の種類の多さにびっくりしています。
・水辺で遊ぼう!!には、参加ノートを提供することによって、小学生は大変喜んでいました。



除草作業



カヌー体験



香月中学校美術部の橋脚壁画除幕式

これまでの助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団体名
北海道	1	北海道	ばんばんばんぶきん
	2	北海道	NPO法人 山のない北村の輝き
	3	北海道	NPO法人 森をたてようネットワーク
東北	4	青森	小川原湖自然楽校
	5	青森	NPO法人 白神山地を守る会
	6	岩手	NPO法人 わが流域環境ネット
	7	岩手	NPO法人 紫波みらい研究所(代表団体)
	8	宮城	梅田川せせらぎ緑道を考える会
	9	宮城	NPO法人 川崎町の資源をいかす会
	10	宮城	NPO法人 杜の都仙台ナショナルトラスト
	11	宮城	カワラバン
	12	宮城	宮城県淡水魚類研究会
	13	宮城	NPO法人 リアスの森応援隊
	14	山形	鮭川村自然保護委員会
	15	山形	庄内自然博物館構想推進協議会
	16	茨城	NPO法人 Water Doors
	17	茨城	御前山ダム環境センター
	18	茨城	NPO環~WA
19	栃木	わたらせ未来基金	
20	栃木	NPO法人 オオタカ保護基金	
21	群馬	NPO法人 緑の家学校	
22	群馬	さなざわり山だんごの会	
23	埼玉	NPO法人 比企自然学校	
24	千葉	NPO法人 ふるさと生きがいづくり	
25	千葉	NPO法人 印旛沼広域環境研究会	
26	千葉	NPO法人 印旛野菜いかだの会	
27	千葉	八千代市はたるの里づくり実行委員会	
28	千葉	NPO法人 しろい環境塾	
29	千葉	はたる野を守るNORAの会	
30	千葉	NPO法人 森のライフスタイル研究所	
31	東京	NPO法人 森のライフスタイル研究所	
32	東京	ぜんかんれん	
33	東京	白子川源流・水辺の会	
34	東京	DEXTE-K	
35	東京	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	
36	東京	NPO法人 おちかわの里	
37	神奈川	浜っ子トラストチーム	
38	神奈川	NPO法人 ヨコハマ倉造空間	
39	神奈川	ほのぼのピーチ茅ヶ崎	
40	神奈川	NPO法人 おさかなポストの会	
41	神奈川	NPO法人 海の森・山の森事務局	
42	神奈川	一般社団法人 サーフライダー・ファウンデーションジャパン	
43	神奈川	NPO法人 小網代野外活動調整会議	
44	神奈川	NPO法人 暮らし・つながる森里川海	
45	新潟	NPO法人 ねっとわーく 裡島瀧	
46	新潟	高根フロンティアクラブ	
47	新潟	NPO法人 新潟水辺の会	
48	富山	福光ふるさと森を再生する会	
49	富山	金山里山の会	

	No.	活動地	団体名
中部	50	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
	51	福井	アマモサポーターズ
	52	山梨	NPO法人 えがおつなげて
	53	山梨	NPO法人 ゼロファクトリー
	54	長野	ステップアップゼミ
	55	岐阜	NPO法人 MY
	56	岐阜	大雪山を愛する会
	57	静岡	NPO法人 浜松NPOネットワークセンター
	58	静岡	NPO法人 はるの山の楽校
	59	愛知	ネイチャークラブ東海
	60	愛知	虹のとびら
	61	愛知	一般社団法人 ClearWaterProject
	62	三重	一般社団法人 海っ子の森
	63	滋賀	NPO法人 旅するおさかなサポーター
	64	滋賀	NPO法人 夢工房
65	滋賀	清水川湧遊会	
66	滋賀	たかしま有機農法研究会	
67	滋賀	神山区いい顔づくり委員会	
近畿	68	滋賀	NPO法人 家瀬川流域観光船
	69	京都	水源の里連絡協議会
	70	京都	NPO法人 プロジェクト保津川
	71	京都	川と海つながり共創プロジェクト
	72	京都	はたる祭改善プロジェクト委員会
	73	大阪	NPO法人 花だんごネットワーク
	74	大阪	NPO法人 ふくてっく
	75	大阪	NPO法人 環境教育技術振興会
	76	大阪	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
	77	兵庫	「味池」を考える会
	78	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	79	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	80	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	81	兵庫	NPO法人 アンビシャス コーポレーション
	82	奈良	景観ボランティア明日香
83	奈良	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金	
84	和歌山	NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク	
中国	85	鳥取	山王さん周辺活性化協議会
	86	島根	NPO法人 飯梨川再生ネット
	87	島根	千鳥のお堀を学ぶ会
	88	広島	酒屋地区自治会連合会
	89	広島	大羽谷川流域の環境を考える会
	90	広島	NPO法人 もりメイト倶楽部Hiroshima
	91	広島	京橋川かいかい あしがるクラブ
	92	徳島	NPO法人 川塾
	93	徳島	NPO法人 環境とくしまネットワーク
	94	愛媛	宮前川クリーンネット
	95	愛媛	エコ・ライフ夢幻村
	96	愛媛	久保・飯川源流を想う会
	97	高知	(社)西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
	98	高知	こうす森林救援隊

	No.	活動地	団体名
四国	99	高知	しまんと黒尊むら
	100	高知	大正中津川「やまびご会」
	101	高知	橘若者会
	102	福岡	中谷地区まちづくり協議会
	103	福岡	NPO法人 つやざき千軒いきいき夢の会
	104	福岡	アックアリング委員会
	105	福岡	火山里山保全交流会
	106	福岡	NPO法人 遠賀川流域住民の会
	107	福岡	香月・黒川「はたるを守る会」
	108	福岡	東朽網校区まちづくり協議会
	109	福岡	NPO法人 改革プロジェクト
	110	福岡	横代校区まちづくり協議会
	111	福岡	津古ふるさと会
	112	福岡	笹尾川水辺の楽校運営協議会
	113	熊本	やまंतरるかわんたるの会
九州	114	熊本	どんぐりプラットホーム
	115	熊本	次世代のためにがんばる会
	116	大分	佐伯広域森林組合
	117	大分	NPO法人 水辺に遊ぶ会
	118	大分	冷川のホタルと親しむ会
	119	大分	関の江海岸の自然を守る会
	120	大分	NPO法人 おおいた環境保全フォーラム
	121	宮崎	MFV会
	122	宮崎	高千穂森の会
	123	宮崎	一般社団法人 日本スキムボード協会
	124	宮崎	NPO法人 みやざき技術士の会
	125	鹿児島	郡山マグニチュード21
	126	沖縄	宜野湾の美ら海を考える会
	127	沖縄	おきなわ環境塾
	128	沖縄	NPO法人 珊瑚舎スコーレ

これまでの助成先団体一覧(海外)

	No.	活動地	団体名
海外	1	中国	NPO法人 環境資源保全研究会
	2	インドネシア	日本インドネシアNGOネットワーク
	3	パプアニューギニア	NPO法人 日本下水文化研究会
	4	ベトナム	社団法人 国際海洋科学技術協会
	5	ミャンマー	認定NPO法人 ブリッジ エーシア ジャパン
	6	中国	ひふみや(自然農法)
	7	ネパール	NPO法人 ミラクラブジャパン
	8	フィリピン	NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	9	ケニア	NPO法人 フリー・ザ・チルドレン・ジャパン
	10	フィリピン	NPO法人 イカオ・アコ
	11	カンボジア	World Assistance for Cambodia and Japan Relief for Cambodia
	12	モザンビーク	モザンビークのいのちをつなぐ会
	13	ネパール	NPO法人 ウォーター・エイド・ジャパン
	14	東ティモール	NPO法人 ウォーター・エイド・ジャパン
	15	インド	NPO法人 ウォーター・エイド・ジャパン
	16	ミャンマー	認定NPO法人 アジアチャイルドサポート
	17	インド	認定NPO法人 日本水フォーラム
	18	インド	Deepak Foundation
	19	ベトナム	公益財団法人 プラン・インターナショナル・ジャパン
	20	ベトナム	公益財団法人 国際開発救済財団
	21	スーダン	NPO法人 ロンナンテス
	22	スーダン	NPO法人 ホープフル・タッチ
	23	フィリピン	NPO法人 ハロハロ
	24	パキスタン・イスラム	認定NPO法人 難民を助ける会
	25	インド	認定NPO法人 ICA文化事業協会
	26	ケニア	認定NPO法人 道普講人
	27	ウガンダ	認定NPO法人 道普講人
	28	インドネシア	公益財団法人 オイスカ
	29	エチオピア	認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構

これまでの助成状況

回	期間	金額	団体数
第1回	2005年 10月~2006年 9月	1,090万円	12
第2回	2006年 10月~2007年 9月	1,560万円	12
第3回	2007年 10月~2010年 9月	8,051万円	29
第4回	2008年 10月~2009年 9月	1,200万円	16
第5回	2009年 10月~2010年 9月	1,102万円	18
第6回	2010年 10月~2011年 9月	751万円	10
第7回	2012年 4月~2013年 3月	980万円	16
第8回	2013年 4月~2014年 3月	1,007万円	20

回	期間	金額	団体数
第9回	2014年 4月~2015年 3月	1,300万円	25
第10回	2015年 4月~2016年 3月	1,430万円	22
第11回	2016年 4月~2017年 3月	1,556万円	24
第12回	2017年 4月~2020年 3月	9,531万円	35
第13回	2018年 4月~2021年 3月	1,752万円	10
第14回	2019年 4月~2022年 3月	2,465万円	10
第15回	2020年 4月~2023年 3月	2,656万円	10
第16回	2021年 4月~2024年 3月	2,747万円	12

※第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

あしたを、ちがう「まいにち」に。
TOTO

TOTO株式会社

(TOTO水環境基金事務局)

<https://jp.toto.com/company/csr/environment/mizukikin/>

(2021年8月発行)

